

第10回高知口腔科学研究会のご案内

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご清栄のことお慶びを申し上げます。この度、下記要領にて第10回高知口腔科学研究会を開催させていただきます。今回のテーマは、最近新しい分類案が示され、治療法に対する考えも変わってきている顎関節症を取り上げ、顎関節症シンポジウムin高知と銘打って開催致します。先生方におかれましてはご多忙中とは存じますが、何卒ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

謹白

記

日 時:2014年2月11日(火、祝日)10:00~12:55

場 所:高知市立自由民権記念館 会議室

参加費:無料

顎関節症シンポジウムin高知 「顎関節症はスプリントで治らない?!」

スプリント派および非スプリント派のシンポジストにご講演をして頂いた後、参加者を交えて徹底的に議論する予定です。帰る際には、スッキリとした気持ちで顎関節症治療ができるようになっていきたいと思います。

10:00~【開会の辞】 高知県歯科医師会学術部長 池田 隆志 先生

10:05~【シンポジウム】

座長 山本 哲也先生(高知大学医学部歯科口腔外科学講座教授)

池田 隆志先生(高知県歯科医師会学術部長)

シンポジスト 徳島大学歯学部特任教授 中野雅徳先生
東京医科歯科大学歯学部附属病院顎関節治療部助教
(顎機能口腔機能学分野) 西山暁先生

12:55~【閉会の辞】 高知大学医学部歯科口腔外科学講座教授 山本 哲也 先生

本研究会は、高知口腔科学研究会、(一社)高知県歯科医師会、高知大学医学部歯科口腔外科学講座、(公社)日本口腔外科学会高知支部の共催の下、一般社団法人高知医療再生機構医療再生事業部の専門医等養成支援事業費補助金を受けて実施します。

※ご出席の際には日歯生涯研修事業ICカードを必ずご持参下さい。

講演要旨

「顎関節症の発症(増悪)メカニズムと作用機序を考慮したスプリント治療」 中野雅徳先生(徳島大学歯学部特任教授)

顎関節症は顎関節学会の症型分類で示されるように病態が多様であり、発症(増悪)要因やメカニズムも多様である。我々は、補綴領域から長年顎関節症の治療に取り組み、咬合異常に起因すると思われる顎関節症に対して、スプリントを含む咬合治療を治療法の一つとして位置付け臨床を行ってきた。1996年米国NIHで行われたTMD(関節症)治療の再評価に関するカンファレンスで、咬合治療に対する否定的な見解が示されて以降、顎関節症の発症要因から咬合異常をはずそうという風潮が広まっている。ブラキシズムが顎関節症の発症要因であることは多くの認めるところであり、我々は、咬合異常があるとブラキシズムによる顎関節への負荷が増大する可能性があることを顎運動研究等で示している。スプリントでブラキシズムを止めることができないとしても、ブラキシズムに伴う顎関節への過剰な負荷を減らす手段として、スプリント以外に何かあるだろうか？

「顎関節症へのアプローチーリハビリテーションと行動変容ー」 演者 西山 暁(東京医科歯科大学 歯学部附属病院 顎関節治療部助教)

顎関節症の発症, 持続, 悪化および再発の要因として, 多因子概念が世界的に受け入れられるようになり, それにともなって治療の考え方も変わろうとしている。

そのような中, 今でも最も多く行われている治療法はいわゆる「スプリント」を用いた治療であろう。ただ, スプリント治療の効果を患者に適切に説明し, その効果を確信して使用している歯科医師はどれくらいいるのだろうか。

当治療部では, 数年前から顎関節症に対するスプリント治療率は0%である。これは顎関節症を筋骨格系の障害ととらえ, 整形外科的アプローチを取り入れるようになったためである。今回, その具体的な内容と背景について解説させていただく予定である。

日 時：平成26年2月11日（火、祝日）10:00～12:55
場 所：高知市立自由民権記念館 会議室

◇申込者

地区会名：（ ）

会員氏名：（ ）

参加人数：歯科医師（ 名）

歯科衛生士（ 名）

その他（ 名）

【申込先】高知県歯科医師会事務局 FAX：088-872-8011

申込締切日：2月3日（月）